保健のページ

早いもので、今月で 2020 年も終わりとなります。今年は、新型コロナウイルス感染症の流行により、保護者並びに園児のみなさんにも多くのご理解・ご協力を賜る一年であったと感じています。大変ありがとうございました。

これまで、感染症対策として手指衛生のことなどをお伝えしてまいりましたが、今月は心のケアについてお伝えします。

感染症対策が長期化する中で、子ども達の環境は目まぐるしく変化しています。

発達段階により、反応や理解度はさまざまですが、以下のようなストレス反応があると言われています。

【乳児期】

緊急事態への理解は難しいですが、周囲の大人の反応を感じています。

●保護者から離れたがらない　●下痢や食欲の低下

●いつもより泣くことが増える　●夜泣きや寝つきの悪さ

【幼児前期】

緊急事態への理解は難しいですが、周囲の大人の反応を感じています。

●集中力の低下　●他者の反応に敏感になる

●攻撃性が強くなる、要求が増える

【幼児後期】

自身の経験を元に理解をしますが、重大性の理解は難しいことが多いです。

起こっていることが自分のせいだと考える(マジカルシンキング)ことがあります。

●大人にくっついて離れない

●指しゃぶりなどが再開される

●口数が減ったり、増えたりする

●活動性が下がる、もしくは高まる

●集中力の低下

●泣く、怒りやすい、表情が乏しくなる

このような反応に対しては、子どもが疑問に思っていること、不安に感じていることを受け止め、正しい情報をわかりやすい言葉で伝えるようにしましょう。

疑問や不安を持っていても、話をしたい子・話すことが怖い子など、反応は一人一人異なります。いつでも聞くよ、という姿勢で接してみましょう。

子どもと話をする際には、「気持ちを教えてくれて嬉しいよ」「感染拡大防止のために〇〇をしていて、それがみんなを守ることに繋がるよ」など、今、子どもができることや、今後の見通し、今の状態がずっと続くのではなく、いつか薬ができるように頑張っているよということなども伝えましょう。

お子さんの様子で気になることがありましたら、遠慮なく職員までお伝えください。

（引用・参考文献：保育現場のための新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック第二版）

看護師より